

これまでの委員意見概要

1. 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都の形成

(1) 歴史を象徴し、人が集まる中心となる「福井城址公園」の整備

【福井城址公園のコンセプト、空間イメージ】

- ・歴史イメージを大事にする、静かで水も緑もある場所とするなど、どのような活動の場とするか、コンセプトを考える必要がある。
- ・石垣、堀、御座所や、櫓、御門、本丸御殿など、埋もれた歴史の活用する方法について考える必要がある。
- ・現代の御座所など、場の歴史的な意味合いを解釈し、次の世代につなげるデザインが考えられるのではないか。
- ・復元されたものが生であるより、市民生活の場をできるだけ確保しながら「偲ぶ」方が奥ゆかしい。
- ・天守閣を50～100年かけて復元するという意気込みを書いてはどうか。天守閣は城下町のシンボルとなる。

【福井城址公園の検討範囲】

- ・2050年のスパンで考えれば順化小まで含めて計画を立てた方が良い。

【先行整備について】

- ・石垣等を生かした自由度の高い広場とし、次につながる空間としてもよいのではないか。
- ・当面は将来像を皆が共有し、議論し、お堀を見て休憩できる、アーバンデザインセンターのような場所として使ったらどうか。広場での市民の活動、カフェテラスの設置などをサポートできる機能（電源、水道等）を準備してはどうか。

(2) 地域の歴史を実感できる都市空間の形成

【歴史を生かした景観づくり】

- ・戦災復興も今や歴史。昭和の始めと後期の歴史で駅前を作っていることは意味がある。歴史を踏まえるとは、新しい歴史をつくることでもある。
- ・青空駐車場が大きな問題。買収するか、少なくとも塀をつけてまちなみをつくるべき。
- ・特に浜町は通りとしてまちなみをつくる大事なポイントであり、最も福井が輝いていた明治維新のイメージが湧くようにしたい。
- ・三秀園までは浜町と同じ性格であるので浜町界限として含めると、足羽川沿いの歴史的な意味も高まる。
- ・養浩館庭園を拡大して桜通りまで広げ城址と一体化するような大胆さがあってもよい。
- ・新しいものが光る通り、歴史が光る通りがあって、通りによって性格が違うというのも良い。
- ・これからの景観づくりは外側だけでない。市民、企業の魅力的な活動、産業といった活動を展開する見せ場の空間表現が、まちなみ、通り、景観の作り方となり、市民のプライドとなる。

【歴史的ルートの再構築】

- ・城下町の形が残っていない中で、資源や事、生業、商売のやり方をうまくつないだ歴史的ルートを再構成し、現代に展開。
- ・城址から県庁線、西口再開発、南通り、城の橋通り、浜町という歴史資源を結ぶルートも考えられる。

【歴史的建造物、歴史資源の保全】

- ・残っている歴史的建造物、史跡等をどう保存し、活用するか。
- ・芝原用水を市民レベルで使いながら守る。歴史的資源を日常生活レベルが市民に利用しながらまちが作られていくのがベスト。

【旧町名の復活、通りの名称変更】

- ・旧町名への変更や通りを歴史を意識できる名称にしてはどうか。

(3) 文化を受け継ぎ、育てる県都の実現

【文化・活動を醸成する仕掛け】

- ・まちの発展を促すこれからの文化芸術の拠点として、産業、市民活動を醸成する仕組みがあると良い。
- ・小さな広場が、大学、企業、市民の活動が展示、アピールされる場として使われるように、例えば建物の一部にショーケースが埋め込まれると次の活動につながる仕掛けとなってよい。
- ・他市町のまちづくりに波及するような仕組みや、各市町がそれぞれまちづくりを学びあうような機会や場があるとよいのではないか。

【食文化を生かす】

- ・福井の文化の中心は食。食文化の視点を大事にして、特に浜町で食文化の再生ができないか。
- ・空き地を利用して、屋台村を仮設実験的に設置することも考えられる。人の流れに乗った通り抜けできる場所であれば可能性があるのではないか。

2. 美しく持続可能な都市の実現

(1) 緑豊かな風格ある都市への再編

【駅周辺、城址周辺街区の再編、デザイン誘導】

- ・建物の更新時期に合わせた再開発など、街区全体での空間の再構築が必要。
- ・このエリアには企業もたくさんある。ビルの寿命を把握しておいて、シェアビルディングとして建替える等、一企業単位の負担を減らしていくようにやっていくことも必要。
- ・昼間人口を考えると県庁、市役所は外へ出るべきでない。県庁周りの空き地をチェックしておき、将来の形のために土地を確保していくこと。50年の計で考えて、早急に手を打つべき。
- ・ある程度土地をまとめられれば、市役所、県庁は中規模の土地に分散させて移転するという考え方もある。
- ・余っている土地の有効利用には高度利用しない方がよい。
- ・容積率を下げ、平面利用を促進する、建蔽率を下げ、緑地をつくる。インセンティブとして固定資産税の減免等。土地利用の大きな見直しが必要。
- ・所有と活用を分離させた、低層で、文化的で、大人のまちとなるようなまちづくりが行えるとよい。
- ・土地をまとめるプレーヤーは誰か。行政が旗頭としてやる必要がある。
- ・まちなかのデザインなどに、福井のものづくりを活かせないか。
- ・歴史的なイメージと、モダンなイメージと、対比的に見せる部分があってもいい。
- ・大きな通りがお堀に面していないことを逆手にとって、お堀周辺をより魅力的な散策空間としていくことが必要。
- ・建物の低層部をオープンにしたり、人が佇むような工夫をガイドラインで示し、支援することで、まちなかで楽しむ仕掛けをつくると良い。

【低未利用地の活用】

- ・虫食い状に空いていく土地について、当面は地域独自の新しい活動を生むための使い方を考えるとよい。
- ・まちなかに民間投資を促し、人を戻すためにも、虫食い状の空き地について、土地の入れ替えだけをやる区画整理の手法がいるのではないか。長期的には土地をまとめる。

【シンボル軸、大名町交差点】

- ・シンボル軸が結節する大名町交差点は、顔となる空間になるよう、角地の工夫があっても良い。
- ・街路灯、街路樹、バス停、電停などのデザインコンセプトと、県と市が協議して個々のデザインを調整する体制が必要。
- ・シンボル軸の緑は緑の空間でどんな新しい市民の活動スタイルをイメージしているかが大事。
- ・街路樹については紅葉する落葉樹を使ってほしい。四季を感じさせる折々のものを入れてほしい。

【顔となる西口再開発・駅前広場等】

- ・駅前がまちの第一印象を決める顔。県都ビジョンを象徴する空間、起爆剤。
- ・これからの交通需要を考えると、交通目的の駅前広場はコンパクトでよく、残った空間を人のためにどうするか考えた方がよい。
- ・駅前広場は時代とともに使用の方法が変わっていくので、恒久的なものにせず、時代に応じて変えていけるとよい。
- ・新幹線が来ると、観光の拠点や交通の結節点としての駅の機能も重要になる。ワ

- クワク感が演出できるような機能が必要。
- ・利用に応じてタクシーを制御する方法があれば、駅前の重要な場所にタクシーが無くても、プールできる場所があればよい。
 - ・大通りへの軸、お城への軸の結節点となる駅前広場の北側は城址への視点場としても重要な場所。人がここに立ち寄る機能を持たせることは駅前広場の意義を高めること。
 - ・西口広場から見ると、お店の看板が福井を降りたときのイメージを悪くしている。せめて看板を整理するとよい。

【駅を城址をつなぐ県庁線】

- ・県庁線は緑や水で城址につながる、城址から南側は商業的地区につながる動線をつくるなど、総合的に作り直すべき。
- ・お堀に向かう道は、ボーナスをあげて公開空地の小さな広場が点在するという工夫をしていくのはどうか。
- ・県庁線を緑に満ちた空間にしたらどうか。
- ・重要な通りから城址へのビューを殺さないように駐車場等の空き地を取得することも必要。

【動線のつなぎ方、街のイメージ】

- ・資源の見せ方、資源のつなぎ方、どの動線が大事かといった考え方をもとにした細やかなデザインや計画的な物の配置が大事。
- ・全体のテーマとして、広く公園と捉えて、生活と結びつくイメージにしていくと良い。公園なので、隙間があって、隙間に緑がたくさんある。
- ・周りに住みたい、働きたい、商売したいという動きが出てくるような、見て楽しめる、見せ場のあるまちが必要。

(2) 人や環境に優しい交通ネットワークの実現

【都市構造との関係の中で公共交通全体のシステムをつくるべき】

- ・どこかの交通を強化してその周辺に居住地を集約するコンパクトシティを目指すなど、都市構造や居住との関係を見定めながら公共交通のシステムをつくっていく必要がある。万遍なく公共交通を張り巡らせるのは難しい。
- ・基幹となる公共交通の新たな路線、バス路線のネットワーク化などのバス政策、小回りのきくバスの高頻度運行など、新しい公共交通のあるべき姿、方向性を提示する必要がある。
- ・中心部では駐車場を確保できず、企業は社員数を増やせない。利便性の高い公共交通機関は、高齢者だけでなく通勤者にとっても良い。

【東西交通】

- ・市民の足となるLR Tは東西を通すべきではないか。

【道路空間の組み替え】

- ・福井は建物に対して道路の幅員が広く、まちをどうしたいかによって、道路空間は組み替えられる。

【自転車の利用】

- ・フラットで道も広く、自転車レーンが作りやすく自転車の可能性は高い。金沢、富山のサイクルシェアリングの例をうまく取り入れて展開できる。
- ・自分の自転車でも利用できるような、おしゃれでデザインが統一された駐輪場をポイントごとに設置することも考えられる。

【超小型EVの導入】

- ・環境の問題、地域の生活者の利便性の確保のためには、小型電気自動車を普及させることが重要。歩行者、自転車、小型電気自動車のゾーンの次に車輛ゾーンがあるという仕組みを今から作っていくのも一つの考え方。

3. 自然を守り、緑や水と共生する都市の形成

(1) シンボルとしての足羽山、足羽川と緑がつながる空間の形成

【足羽山、足羽川の緑の保全】

- ・足羽山、足羽川のエリアは、福井が環境をどう見ているか、シンボルになる場所。
- ・里山は手を入れないと、どんどん荒れていく。自分たちの里山という意識を持って、大切な足羽川と足羽山を守っていったらよい。
- ・アジサイは福井の花であるが、アピールが足りない。足羽山にアジサイをもっと植えて、アジサイの山にして欲しい。

【学ぶ場としての活用】

- ・「学び」というキーワード。足羽山で自然を学ぶ、眺望でまちを学ぶ。
- ・中学生などが環境学習する場として、プログラムを組んではどうか。
- ・土地の所有者と、足羽山の利用者が互いに協力し、保全と利用を両立する仕組みを、他市での例も参考に導入してはどうか。

【足羽川の見せ方、緑をつなぐ景観】

- ・まちなかから川の気配が感じられるとか、川沿いに出たとき、広がるパノラマを見せるなど、見せ方の工夫が必要。
- ・足羽山、足羽川の自然とまちを緑でつなげる視点が重要。

(2) 文化と活動の空間としての足羽山、足羽川の再生

【足羽山に文化を育てる】

- ・足羽山にアートを育て、駅前商店街のアート・イベント等とつながりが生まれるとおもしろい。

【水辺を生かした足羽川の整備・活用】

- ・足羽川を使って、イベントで三国湊とつなげるなど、さまざまな社会実験を実施してはどうか。
- ・ソフトの展開で、足羽川の新しい使い方を広報して浸透させていくことで、うまく習慣づけが出来るかもしれない。
- ・足羽川は賑わいづくりと災害対策という考えが拮抗して使いづらい
- ・川床をかけてはどうか。

【足羽川周辺の整備・再生】

- ・浜町では、福井の食文化を浜町のライフスタイルとして確立させる、アートを育てるという取り組みを始める。こうした市民活動のためにも、異人館等のシンボリックなものがあると、より共感を持って推進していく力になる。
- ・浜町で明治時代のまちなみと食文化の再生ができないか。
- ・足羽川は中だけで完結せずに、浜町等の周辺と絡めて、外に作って中を楽しむと考えた方が活用しやすいのではないか。
- ・三秀プールは史料もあり庭園として復元可能で養浩館庭園よりも立派。九十九橋袂の「産物会所」跡は福井藩の幕末の商業的なキーとなる場所。そういったポイントを復元等していくことに加えて、横井小楠、由利公正宅も両岸にあったということで足羽川のストーリーが広がっていく。

Ⅲ 推進方策

【ビジョンを共有し計画を高める、プロセスのデザイン】

- ・一つ一つの最終目標を固定するのではなく、大きな方向性を出し、遺跡と一緒に掘りながら将来像を考える。市民、大学、専門家の提案をもらい、高めていきながら肉付けをしていく。県民がビジョンを共有しつつ、さらに高めていく。プロセスのデザインをすることが、これからの不確定な時代には重要。
- ・これから50年後をつくるプロセスを市民が集まって共有し、議論し、ビジョンを作っていく場があるとよい。

【デザインマネジメントの体制づくり】

- ・県、市、民間も含めた、継続的な全体のデザインマネジメントの仕組みをつくっていくよう考えてほしい

【空間デザインに対するアイデアを集める工夫】

- ・具体的なデザインについては専門家に任せてアイデアをもらおうと良い
- ・議論をして、方向性を作ったうえでのコンペ形式。人を育てるという意味では、ファシリテーターとか、プロモーターとなる人の提案を求める。提案型の試みは有効な仕掛け。